

第2回ほっかいどう未来チャレンジ応援会議学生留学部会
(北海道創生・海外留学支援協議会幹事会) 議事概要

- ・日 時 平成29年10月31日(火) 10:00-11:00
- ・場 所 本庁舎地下1階 総合政策部会議室
- ・出席者 別添出席者名簿のとおり

1 報告事項について

(1) 平成29年度の応募・選定状況[事務局説明]

- ・12名の応募があり、5名を選定したが、札幌圏のみからの応募だったのが課題
- ・分野については、食関連と観光のみだったが、農林水産業に数えられる内容もあった
- ・来年度に向けて、札幌圏以外の主要大学に直接訪問して説明を行い、概ね好感触を得ている
- ・(質問・意見なし)

(2) アンケート調査結果[事務局説明]

- ・協力いただいたアンケート結果を集計した
- ・アンケートを受けての今後の方向性は、後ほど議題で扱う

(委員)

- ・協議会未加盟の大学の学生から相談はあったか

(事務局)

- ・学生から大学に相談があり、協議会に加盟することとなった例が2件あった

(3) 危機管理体制[事務局説明]

- ・自己責任かつ在籍大学による安全・危機管理をお願いしている
- ・協議会としては、事前オリエンテーションでの意識付けや、派遣者在籍大学による危機管理連絡会議を開催したほか、本人・事務局・大学による情報共有体制を構築している
- ・(質問・意見なし)

2 議題：来年度の事業展開について

(1) アンケート調査結果に基づく検討の方向性(案)[事務局説明]

- ・募集時期が遅かった反省を活かし、早い段階でリーフレットやポスターを大学に配布予定
- ・家畜獣医について、対象分野拡大について意見があったが、現行の農業分野に関連するものであり、応募可の旨回答する。また、対象分野の考え方(観光×ITなど)について周知する。
- ・留学期間について、留学生を多く輩出する北大、小樽商大など4大学から、6か月超の留学ニーズが多い旨の課題意見があった。
- ・募集人員については、地域からの派遣者増加策を検討する
- ・大学のテレビ授業や、振興局のテレビ会議を用いた遠隔審査も検討する
- ・大学審査員が在籍する大学の学生が応募してきた際、審査の公平性を担保することが難しいため、大学審査員が書面審査、民間・自治体審査員が面接審査を行う分離審査を検討する

(委員)

- ・遠隔審査については、2通り方法があり、
 - ①Skypeなら、画質が荒くなるが、学生が自分の在籍大学で受験可能
 - ②ポリコム(国立大学を繋ぐテレビ授業システム)なら、学生が地方の国立大学で受験可能
審査員が集まる場所として北大を提供することも可能

(事務局)

- ・各課題を整理して、事務局でもう少し検討したい

(委員)

- ・書面だけではわからない部分もあるが、面接もという日程調整も難しいので、分離でよい

(事務局)

- ・審査に当たっては、受験者の名前を消すなど公平性に配慮する

(委員)

- ・書面で大学の先生方に見ていただき、面接で民間・自治体の方に、初対面での対応などを審査する方法がよいと思う

(2) 高校生段階からの留学支援・機運醸成について[事務局説明]

- ・トビタテ！地域人材コースに高校生支援制度を追加するという新たな動きがある
- ・優秀な人材を選抜するという基金の趣旨に合うか十分な検討が必要であり、また、全国コースで幅広く支援対象になっており、制度が重複していることも踏まえ、来年度の導入は拙速と考えている

(委員)

- ・札幌市では、現在市立高校の学生を対象に1年間の留学に対し30万円の助成を行っている
- ・定員5名に対し、応募はギリギリか少し割る程度
- ・高校生は世界で活躍するという夢を持っている場合が多く、地域貢献の縛りは難しい

(委員)

- ・高校で少しでも留学した人は、大学でも留学するケースが多く、道の実情に合った形で、短い期間で多くの高校生を送り出せる方がよい
- ・小樽商大のプログラムとして、高校卒業後に社会経験を積んでから大学に入学するというギャップイヤープログラムに力を入れている
- ・道外の学生が農業体験などをしながら道内の大学に進学して留学を目指すもので、道内の18歳程度の若年層の増加にも寄与している

(委員)

- ・今年の壮行会に参加し、期待感をもって学生を送り出した
- ・彼らが海外で活動している様子が、広く道民に紹介されてほしい
- ・また、道内地域への貢献ということでは、帰国後具体的にどうバックアップしていくのかを検討した方がよく、これもどう広く道民に知らせていくかの検討が必要
- ・渡航するときには一時的な経済的負担があるため、そうした経済的な心構えがわかるような仕組みが必要